

眼科臨牀實驗五題

岡山醫士

辻 武 四 郎

一 膿漏眼ノ治療法

本病ノ療法ハ多様ニシテ各自推稱スルトコロヲ異ニスト雖未ダ百發百中ノ良法アルヲ聞カズ、余ハ數年來次ギノ療法ヲ施シ良果ヲ得殆ド角膜合併症ノ厄ヲ知ラズ。

其法、先ヅ上下眼險結膜ヲ露出シ、分泌物ヲ綿拭シタル後、新鮮ナル二%硝酸銀水ヲ點眼シ法ノ如ク洗滌シタル後、眼ヲ蒸氣菴法器ノ前ニ齎ラシ、蒸氣ヲ迸出セシメ、露出セル上下眼險結膜面上ニ灌注ス、コノ時ナルベク眼ヲ噴霧口ニ近接セシメ、蒸氣ノ溫度ヲ高度ナラシメムガタメ豫メ硝子漏斗ヲ除却ス。噴霧ハ百瓦ヲ一回量トシ、回数ハ病勢ノ輕重ニヨリ一日一乃至二回トス。高溫度ノタメニ眼險ヲ固定セル術者ノ手指ハ甚ダシク熱感ヲ覺ユルホドナルニヨリ患者ハ熱痛ニ對シ幾何カノ忍耐ヲ要ス、サレドモ術後眼險輕ク清爽ノ感アリ。

本法ニ於テ稍々特異ト認ムベキハ

- 一、初期ノモノニ對シテハ約一週間ニテ排膿ヲ殆ド全ク絶止セシメ、險腫去リテ險裂開大ス。
- 二、本病ニ屢々認ムル邊緣點狀表層浸潤ヲ「アトロピン」ト相俟テテ消退セシムルコト甚ダ容易ナリ。
- 三、既存ノ角膜潰瘍モ進行自ラ停止ス。

- 四、從來ノ治療法ニヨリテ屢々貽後シタル乳嘴増息、銀病―慢性結膜炎等ハ本法ニアリテハ見ルコト稀ナリ。

二 膿漏眼ノ偏眼豫防法

偏眼膿漏ノ際通常行ハル、健眼ノ感染豫防法ハ固封法ナリ。余ハ通院患者ノ固封法ヲ行ヘルモノガ既ニ翌日ニ於テ最モ危險ナル鼻側固封部ノ剝離セルニ驚ケルコト屢々ナリ。余ハ前年試ミニ毎日一、二回二%硝酸銀水ノ健眼點眼

ヲ施シ全ク固封法ヲ行フコトナク觀察シタルニ全經過中遂ニ感染ノ厄ニ會ハザリキ、爾來偏眼感染ノ豫防ハ固封法ヲ煩ハスコトナク單ニ二%硝酸銀水點眼ニヨリ確實ニ奏效スル自信ヲ得、偏眼膿漏ニ接スル毎ニ實施シ來レルニ未ダ一回モ失敗シタルコトナシ。

三 麥粒腫ノ頓挫療法

成書ヲ閱スルニソノ麥粒腫療法ノ條下ニ記載スルトコロハ常ニ冷菴法ニヨリテ吸收セシムルカ或ハ溫菴法ニヨリテ化膿ヲ促進シ切開排膿ノ期ヲ速カナラシムルニアリ。抑モ麥粒腫ノ頻度ハ甚ダ屢々ニシテ或ハ放置シテ自然的ニ吸收シ或ハ素人療法ニヨリテ經過セシムル數極メテ多カルベキモ、ソノ開業醫ヲ訪フ%モ亦決シテ少ナシトセズ、コニ若シ非化膿的療法アリテ、ナルベク出血の處置ヲ回避セントスル人情ニ投ズルヲエバ一小事モマタ患者ノ歡喜ヲ買フヲウベシ。

方法ハ單簡ナリ、即チ細毛筆若クハ綿片ヲ纏絡シタル硝子棒ニ純樟腦精ヲツケテ一日一、二回眼瞼ノ局所ニ塗布スルニアリ、コノ際直チニ乾燥スル程度ニ塗布スベシ、多量ニ塗り過ギ、流レテ眼瞼縁ニ達スルトキハ眼ヲ刺戟スルコト甚シ。適應症トシテハ麥粒腫ノ極初期ノモノニ限ル、通常瞼縁ニ瘙痒ヲ感ジ初メタル第一日目ノモノニ塗布スルトキハ百發百中ナリ、但シ既ニ局所ニ潮紅或ハ腫脹ヲ認メウルニ至レルモノニアリテハ炎症々狀ノ弱キ種類ノモノ、外ハ多クハ徒勞ニ屬ス。カクノ如キ未ダ他覺的ニ認ムベキ何等ノ症狀ナキ早期ノ麥粒腫ガ醫家ノ手ニ投ズルハ一ノ麥粒腫ヲ治療中偶々他部ニ再發シ來ル場合、或ハ一旦麥粒腫ニ經驗アル注意深キ患者ニ限レルガ如シ。コノ療法ノ奏效スル場合ハ塗布ノ翌日既ニ自覺症狀全失ス、多クハ一二日ニテ治療ヲ廢スルヲ得ベシ。

四 受水器使用ノ一法

受水器ハ洗眼壺、點眼壺ト共ニ吾人日常ノ好伴侶ナリ。ソノ使用法ハ患者ハ器臺ヲ把持シテ頰部ニ固定セシムルヲ常トス。コレニ代フル法トシテ余ガ次ギニ述ブルモノハ一小事ニシテ恐クハ諸子ノ一嘘ヲ買ハンヲ虞ル。其法ハ

受水器ヲ使用スルニ當リ患者ノ手ヲ勞スルコトナク術者自ラ頰部ニ固定シ洗眼ノ目的ヲ遂ゲントスルニアリ、即チ術者ハ自ラ左拇指頭ヲ頰ト接着セザル方ノ受水器ノ縁ニカケ頰部ニ向ケ壓迫固定シ、通常ナラバ左ノ拇指ト示指トニヨリ行フ眼部ノ洗滌ヲ、コノ法ニアリテハ左ノ示指ト中指トヲ以テコレニ代フ。

余ガコノ方法ヲ數年前ヨリ推稱措カザル所以ハ通常ノ方法ノ如ク兒童及ビ無智ノ大人ガ術者ノ意表ニ反シ器臺ヲ不知不識下方ニ牽引スルノ煩ヒナク、マタコレヲ一々介補スル看護婦ノ勞ナキヲ便トスルガタメナリ。

參照書目

辻武四郎著 眼科看護學 六十二頁八〇圖

五 白金耳ノ一應用

芒把狀角膜炎ノ頓挫法トシテ最モ確實ナルモノト信ジウベキ頭部燒灼法ハ從來烙白金或ハ燒灼電氣ニヨリテ行ハレタリ。多クハ單ニ一回ノ極メテ微力ナル燒灼ニヨリ病勢ヲ頓挫セシメウル事實ニ鑑ミ余ハ細菌學用白金耳ヲコレニ代ヘ用ウルコトヲ創メタリ、ソノ法次ギノ如シ。

點火シタル酒精燈ヲ坐右ニ近ク置キ、右手ニ白金耳ヲ執リ燈上ニテ灼熱シ、豫メ局所麻醉セル芒把狀角膜炎ノ頭部ニ速カニ觸ル、ニアリ、數回コノ觸接ヲ反覆シ局所ノ乾燥感ヲ呈スルニ至リ術ヲ終ル。患者ヲ横臥セシムルノ要ナク通常點眼ノ位置ニ於テ行フヲ得ベク、余ハ左手ニヨリ自ラ開瞼スルヲ常トシ開瞼器ノ必要ヲ覺エズ。

上述白金耳ニヨル簡易燒灼法ヲ創メテヨリ以來、芒把狀角膜炎ニ對ネル烙白金或ハ燒灼電氣ノ使用ハ余ニ於テ恰モ鷄ヲ割クニ牛刀ヲ擬スルノ感アリ。